

ふくサポだより

福島県ため池サポートセンター vol.7_R5.3.23

ため池整備設計に係る 技術研修会の実施

福島県ため池サポートセンターでは二月八日に、ため池の設計及び施工に携わる県・市町村・土地改良区担当者を対象に、福島県農業総合センター（郡山市）で「ため池整備設計に係る技術研修会」を開催しました。

研修会には、ため池の設計等に精通したNTCコンサルタンツ株式会社東北支社の担当者を講師に迎え、講義を行っていただきました。

研修内容は、今後実施が予定されているため池のレベル2地震動に対する耐震性能照査に関する地震動の取扱い及び令和四年七月一日に改定した設計洪水量の算定方法となります。

県内の各方部から約八十名の担当者に出席いただきました。

質疑応答

研修会に参加した受講者の質疑は、次のとおりです。

Q1. 「ため池の耐震性調査において、重要度区分がAA種及びA種の場合は、液状化に関する土質の判定を要するが、地震動の条件がレベル2又はレベル1と異なる場合に評価手法に違いはあるのでしょうか」

A1. 「いずれの場合も土地改良事業設計指針「ため池整備」に基づくフロー図に準拠することから、評価手法に違いはありません」

Q2. 「講義で説明のあった工学的基盤の弾性波速度300m/sとはどの程度のよくな地盤となるのでしょうか」

A2. 「想定しやすい地盤としては、軟岩相当が該当します。」

Q3. 工学的基盤を液状化判定時の基礎地盤として取り扱うことは可能でしょうか」

A3. 「工学的基盤は、軟岩相当となるため、液状化判定時の基礎地盤が工学的基盤として考えても差し支えないでしょう。」

他にも多くの質問により有意義な研修会とすることができました。

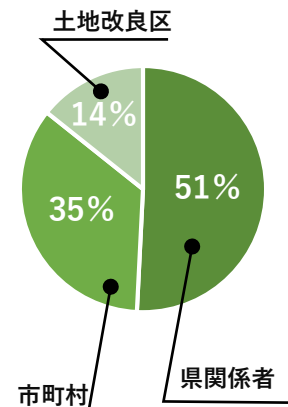


アンケートの実施

研修会の参加者へ、アンケートをお願いしたところ、改善点や開催して欲しい研修会など様々な意見がありました。
 なお、アンケートを集計した結果は、次のとおりとなります。

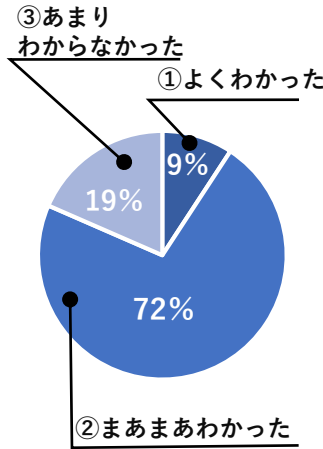
研修内容に関する意見について

参加者の内訳



レベル2 地震動の耐震性能照査に関する参加者の理解度は、左図のとおりになります。

レベル2地震動の耐震性能照査の講義内容について

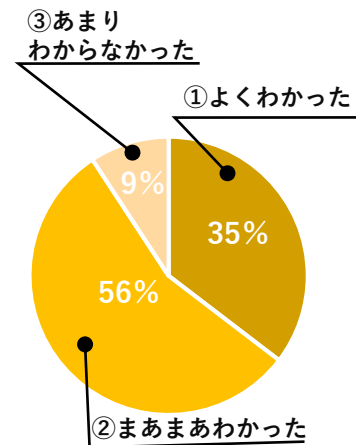


参加者からの意見は、次のとおりです。

- ①レベル1とレベル2の区分についてよく分かった。
- ②フローにより照査の流れは分かったが、詳細な部分が研修の中では理解しきれなかったため改めて資料を見直したい。
- ③工学的基盤、地震入力波形を求めめる考え方が理解できた。
- ④耐震性能照査の意義などを学ぶことができたが、照査に用いる式は、複雑で理解が難しかった。

ため池の設計洪水量の算定について、講義内容に関する参加者の理解度は、左図のとおりになります。

設計洪水量の算定の講義内容について



参加者からの意見は、次のとおりです。

- ①設計洪水量の算定方法が理解でき、今後の業務に活かしたい。
- ②設計洪水量の改定内容について、わかりやすい研修資料のため、よく学べた。
- ③イメージとしてどのようにすれば良いのか理解はできたが、どのように業務へ活かせば良いかが課題だと感じた。
- ④200年確立洪水量の算定方法について、詳しく内容を知ることができた。

今後、研修会を希望する内容について

- ・雨量の程度や地震の震度により、具体的にどのような箇所を点検したら良いのか、日常点検と緊急点検の確認すべきポイントなどの研修会を開催してほしい。
- ・ため池の実施設計の際に照査や算定方法など判断に迷う場合について、実例を交えた研修を受講したい。
- ・ため池の防災工事にあたり、堤体の遮水性ゾーンに使用する刃金土が確保できない場合の対応策に関する研修会を開催してほしい。

今回いただいた貴重なご意見を参考にし、皆様のお役に立てるような研修会などを今後も開催して参りたいと考えております。

☎ 024-535-0383

ため池管理者の方の相談窓口

受付日時

平日 9:00~16:00
 ※ 祝日、休日、年末年始を除く

農業用ため池管理者からの、ため池に関するご相談やお悩み等をお受けし、福島県の各農林事務所又は各市町村の担当部署へ対応の調整を致します。

福島県ため池サポートセンター

所在地 福島県福島市南中央三丁目36番地 (福島県土地改良会館内)

TEL 024-535-0383

FAX 024-535-0358

E-mail : tameike-support@midorinet-fukushima.jp

ホームページ : <https://www.midorinet-fukushima.jp/>